



令和3年6月

発行
出雲大社相模分祠
神奈川県秦野市平沢 1221
TEL:0463-81-1122
FAX:0463-82-1728
編集兼発行人
副分祠長 草山和泉
季刊毎年2回発行
<https://www.izumosan.com/>

いやくまじない はじ
衛生の努めを全くとすき事
出雲大社相模分祠では皆様方に安心してご参拝頂けますよう感染防止対策を実施して、お守り・ご祈禱の受付など午前八時三〇分〜午後五時まで受付しております。

出雲大社教 教典『大道要義』
第十五章より（明治年間発行）

- ・ 手水舎のかわりに消毒液をご案内・社会的距離の徹底
 - ・ 分散参拝・三密の回避・定期的なアルコール消毒の実施
 - ・ 医療機関による職員の定期健康診断
 - ・ 大型空気清浄機の導入 等
- いち早く健康な社会生活に快復しますよう心よりお祈り申し上げます。

令和三年 ほおずき市・縮小実施

恒例のほおずき市朝顔市ですが、新型コロナウイルスの影響をうけて、イベント自粛とあわせ縮小実施します。例年行っておりました駅からの無料送迎バスや、太鼓やダンスなどの催し事は開催しません。

一、ほおずき市
境内参道にて
七月十・十一日（土日）
十七〜十八日（土日）
十時〜十七時

ほおずき籠付き
二〇〇〇円
※二〇〇鉢限定とさせていただきます

切り花ほおずき
一〇〇〇円
キッチンカー等テイクアウト販売あり

※社会情勢により変更することもありますので予めご了承願います。



鎮守の森を守る

出雲大社相模分祠の境内には、今では二万本以上の木々が生育され、鎮守の森を形成しております。

また平成十八年、出雲記念館の屋上にソーラーパネルを設置、境内には風力発電式の外灯を設置。以後、太陽光発電式外灯や、電気自動車用の急速充電器を設置し、美しい日本を後世に守り継ぐべく積極的に環境問題に取り組んでおります。

ヤギの奉納・放牧

令和三年二月十三日にファーム田形よりヤギ二頭が奉納され、斎館裏の竹林内で飼育を始めました。

次郎（じろう）（雄）
令和元年十月三十一日
生・シバヤギ系

もも（雌）
令和二年十一月二十二日
日生・シバヤギ系

普段は竹林内のヤギ小屋にいますが、日によって竹林、参道に放牧しています。雑草等たべるので境内清美の役を担います。二頭とも大人しく人懐っこい性格なので写真撮影等は可能ですが、次郎は大きな角があるのでご注意ください。



神語奉書奉納の御案内

昨年に引き続き、感染症蔓延防止のため、島根県出雲大社への参拝を自粛しております。

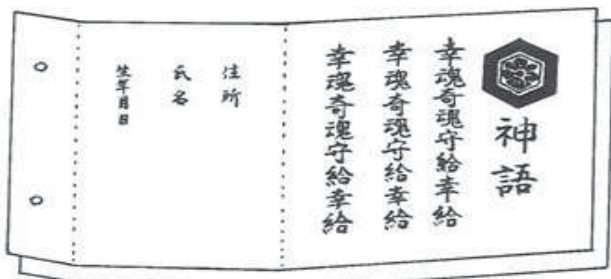
「神語奉書」を奉納して大神様との中執りもちを尽くします。

皆様の願い事を込めて謹書して頂いた神語奉書は八月上旬の出雲大社教団大祭（島根県）において、大國主大神様の大御前にてご祈念し奉納致します。

※一枚につき

一〇〇〇円。

社頭にてご対応しております。



郵送祈禱のおすすめ

新型コロナウイルス感染症対策として人と人との接触が制限される中、初詣や安産祈願・お宮参りなど日取りを定められなくお困りの方も多くおられました。今回のコロナ禍に鑑みまして年末のみお申込みを承っております。お申込みを承っております。お申込みを承っております。

※郵送の場合は送料千円頂きます。但し、ご利用しやすいように代引き手数料並びに同封のお振込用紙の振替手数料は当社が負担致します。

夏の行事のご案内

一、月次祭
毎月一日

午前十時三〇分齋行事前予約不要・無料
月始めにあたり地域の安全・家内安全・日々の暮らしの安全等を祈願する神事です。出雲神楽による巫女舞を奉納すること月次祭にはどなたでもご参列頂く事ができます。月次祭に併せて縁結び・家内安全・交通安全・厄除け等、各種ご祈願承ります。

一、祖霊社みたままつり
毎月第一日曜

午後三時齋行事前予約不要・無料
当分祠の祖霊社にて毎月行われる祖先の御霊を慰霊する合同の祖霊祭です。大國主大神様は幽世の世界を主宰する神様でもあります。御家のご先祖様のご冥福をお祈り申し上げます。

※どなたでもご参列頂くことができます。

一、永代供養相談会
随時実施（予約制）

一、夏越の大祓

茅の輪くぐりの神事
（詳細四面）

六月二十七日（日）

午後三時
三十日（水）

午後六時
七月 四日（日）

午後四時

一、ほおずき市
七月十・十一日（土日）

十七〜十八日（土日）
十時〜十七時

照ノ富士関 大関復帰を祝う

伊勢ヶ濱部屋の照ノ富士関は当社の節分祭・お正月の福迎祭に毎年参列し、必勝祈願をして本場所を迎える。コロナ禍で令和三年は参拝を控える事となったが、令和二年七月場所優勝、令和三年春場所三回目の優勝を果たし、二十一場所ぶりに大関復帰を決めた。一時は序二段まで番付を下げながら、見事な復活を果たした。悔しくも照ノ富士関は両膝の三度の手術、糖尿病やC型肝炎などで体調を崩し、平成三十年初場所を最後に幕内から陥落した。手術後は膝の痛みで、赤ちゃんのように伝い歩きから始まった。治療、リハビリ、ウェイトトレーニング。退屈しそうなルーティンに我慢して、耐えて幕内経験者が序二段まで降下後、史上初となる再入幕を果たした。そして令和三年三月、春場所、十二勝三敗見事幕内優勝を果たし、大関復帰を祝う。

関昇進が決定。千秋楽の最後の三番「これより三役」に勝った力士には、懸賞のほかに「矢」に「弦」の順番で与えられる。照ノ富士関が大関時代に初優勝したときに手にした矢が出雲大社相模分祠に奉納されている。草山清和分祠長は、大関照ノ富士関が所属する伊勢ヶ濱親方と現役時代から親交がある。親方は大関時代に受けた矢を当社の神殿に奉納したところ、横綱旭富士へと昇進した。さらに伊勢ヶ濱部屋の兄弟子、横綱日馬富士も、同様に大関時代に矢を奉納し、後に横綱昇進を果たした事にちなみ、照ノ富士関自身も大関昇進を機に矢を奉納したいと申し出た。草山分祠長は「親方も横綱も大関の時に奉納し、そろって横綱になった。きつと二人に続いて強い横綱となつてく



一番大きな背中の照ノ富士関

出雲記念館 七五三・成人式 展示会



七五三衣裳・予約展示会

七月十一日(土)
九時〜十六時(予約制)

成人式衣裳・予約展示会

七月十七・十八日(土)
九時〜十六時(予約制)

※密を避けて
の予約が安心

お申込みは公
式サイトから。



豊富な経験を積んだ衣裳
スタッフとお気に入りの
お着物を探して下さい。
満足できるまで試着も
できるので安心です。

表丹沢 山開き神事

令和三年四月十八日早朝、日本百名山にも数えられる表丹沢で山開き神事を斎行し、秦野市長、県議会議員、山岳救助隊、秦野警察署長達が参列のもと、登山者の安全が祈念されました。引き続き、遭難者慰霊祭が斎行され、ご冥福をお祈りしました。例年山開き神事に併せ、秦野に春の訪れを告げる「秦野丹沢まつり」が開催されますが、感染症予防のため中止となり、「登山安全祈願式」「遭難者慰霊祭」のみ神職、参列者により斎行しました。秦野市長が実行委員長を務める「秦野丹沢まつり



野市の主要な観光地でもあります。

春の陣―よさこい―

令和三年四月二十四・二十五日、当社境内で三回目となるよさこい演武の奉納があった。昨春は緊急事態宣言の中止となったが、本年は感染予防の徹底と、同時WEB配信をすることで人数を限定しながら開催の運びとなった。当分祠公式サイトより動画閲覧が可能。



出雲大社特別賞：躍動



優勝：dance company REIKA 組

丹沢御朱印

山開き神事で登山者の安全を祈念して、丹沢御朱印を奉製しました。神奈川県立戸川公園前大倉入口にある山守茶屋で頒布しております。丹沢御朱印は和紙に浄書された朱印のみ用意しておりますので、直接日にちなみを書くことはできません。山守茶屋のお賽銭箱に入れてお持ち帰り頂けます。朱印には「表丹沢 真秀場 秦野」の神璽が押印されております。「真



500円(和紙)
御朱印帳には書きません

杜のとうふ工房 山守茶屋

創業明治三十六年「杜のとうふ工房三河屋」のこだわりのお豆腐を使つた丹沢カフェです。三河屋の諸星さんは先祖代々当分祠の篤志家でもあり、昭和六十年には祖霊社の鳥居を奉納されました。



所在地：秦野市戸川(大倉入り口)
【表丹沢】 県立戸川公園前

三河屋さんは当分祠近くの工房で毎日秦野名水仕込みのおいしいお豆腐を製造し、昔ながらの引き売り・店舗販売だけでなく、独自の豆腐加工品開発・カフェなどを経営。当社境内にお豆腐販売所も出店しております。豆腐の命ともいえる水は環境省の名水百選選抜総選挙でおいしさ部門全国一位に選定の秦野名水を使用。表丹沢のカフェ「山守茶屋」ではふわふわした食感が楽しめる「飲むお豆腐」が人気。他にも「お豆腐ドーナツ」「豆乳ラテ」「豆乳ばあむ」等ここにしかないおいしいお豆腐スイーツが頂けます。丹沢登山の思い出に、縁起の良いお豆腐と丹沢御朱印を。《営業時間》十一時〜十七時 不定休

出雲記念館 写真スタジオ

当分祠に隣接されるレングの建物「出雲記念館」の写真スタジオは三十年以上の実績があります。お宮参り、入学式、卒業式、結婚式、七五三、成人式など人生の節目に皆様の思い出が素晴らしいものとなりますよう、専属のプロカメラマンが撮影。画質・明るさ調整を加えて最高の状態で製作します。

出雲大社相模分祠の境内でロケーションフォト！人気プラン
プロカメラマンと作るスナッパアルバム
【思い出スナッパ】
一六五〇円〜・五十分

※時間内枚数無制限〜50カット以上〜カメラマン1名（写真データ納品）
プリントアルバム別注
・お祝いのお子様、ご家族様も一緒に思い出写真を残せます。

プロカメラマンと一緒に自分だけのアルバムを作り上げます。



幽世を司られる大神様の御神徳（幽顕より抜粋）

大國主大神様は目に見えぬ幽世を司られる神様でいらつしやる。幽世とは神々や霊魂の世界であり、大神様は八百万の神々を統率なされると共に、生きとし生けるものの霊魂をお守りくださっている。この御神徳を特に詳しく伝えていくのが『日本書紀』所収の神話である。

神代の昔、日本の国づくりに励まれた大國主大神様。やがて高天原の神は遣い神を出雲の地へと派遣され、大國主大神様との国譲りの交渉が行なわれた。当初、国土を譲るかどうかを問われた大神様は、唐突の出来事に遣い神の申し出に疑念を持たれた。そこで遣い神は一旦高天原へと戻られ、

高皇產靈尊（たかみむすびのみこと）様へそのことを報告された。そして、再び遣い神が出雲の地へと派遣され、高皇產靈尊様は大神様に対して以下のような神勅を下された。
「汝が治めている現世の政治のことは私の子孫（皇孫）に治めさせよう。汝は目に見えない幽世の神事を治めなさい」

この神勅により、目に見えない幽世（うつしよ）のことは皇孫（代々の天皇陛下）が治められ、目に見えない幽世のことは大國主大神様が治められることとなり、天皇陛下を真中に仰ぐ日本の国柄が開かれた。
このことから、特にこの神勅を「幽顕分任（ゆうけんぶんんにん）の神勅」と呼んでいる。



秦野市洪沢丘陵に神道墓地建立

祖霊坐（ま）す故郷。故に神道では、人が亡くなるとことを「帰幽（きゆう）」と表現するのである。

いのちの杜づくり2020プラス1

植樹祭を計画中

令和四年、秦野市平沢向山で「環境省「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト賛同事業植樹祭」。

主催は「いのちの森づくり2020プラス1出雲大社相模分祠」、共催「秦野市」「平沢御嶽神社」で、本来は2020年に開催予定であったが、感染症予防の為に中止となり、改めて環境省とも打ち合わせを行い開催を予定している。



日本書紀に、須佐之男命と息子の五十猛神が日本中に種を蒔いてあらゆる山が青々しい山になった話が記述されています。すでに日本人は神代の昔より、植樹を行い環境を大切に守ってきた世界に誇る文化を持っています。世界中の地球市民のために土地本来の森をつくることは最低限の生態系をローカルから地球規模で

維持し、人類がこの緑の惑星地球で未来に向かって生き延び着実に発展するもつとも的確で正攻法の手段であることを理解して頂くため、自ら企画運営して共に東京2020年に足下から額に汗し、手を大地に接して、小さな苗を植えていく。その成果とノウハウを日本から世界に発信していく。宮協昭、いのちの森づくり運動です。

出雲大社相模分祠では、古くより神道による供養、祖霊祭祀を啓発している。出雲大社のご祭神「ダイコク様」は縁結だけでなく幽冥主宰大神として死後の世界を司る神様として伝承される。

日本では古来より神道文化の島国ではあるが、海外の多様な文化と習合され、とくに江戸幕府の政策により仏教の檀家制度が全国に広まった。それより以前から出雲大社では神道の供養を通して、庶民の葬式やお墓の問題に積極的に関わってきた。

明治維新において、国家神道とは立場をわかし、神道の民間布教を通じ神葬祭や埋葬の作法などを教導するに至った。



当分祠の傍らに鎮座する祖霊社は、日本人のご先祖様の御霊をお祀りし、大神様の御傍で供養するものである。

はじめに納骨堂にご遺骨を安置して、御霊さまの鎮魂・供養を致します。弔い上げの際には、秦野市洪沢丘陵にある神道墓地に永代供養し、秦野の里山自然に還ります。

永代供養付納骨堂

永代供養料 33万円
年間管理料 1万円

出来します。祖霊社で斎行すること御自宅、霊園へ出張祭典も可能です。
みたままつりのご案内
祖霊社にて、毎月第一日曜日午後三時より合同

納骨堂・神道墓地は当社の信徒・崇敬者の方ならどなたでもご利用頂けます。実家が仏教でも、新たに神式に改めることも可能です。



夏越の大祓のご案内

六月の晦日、恒例の夏越の大祓(おおはらえ)並びに茅の輪くぐりの神事を斎行します。
古来我々の先祖は、毎年六月晦日・年末に「大祓」によって心身を清浄にし、新しい半年の幸せを祈願しました。一層の「幸せ」のご縁をお授かりになりますようご案内申し上げます。
昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症防止を考慮しまして、予防対策をして規模を縮小し実施します。斎行に際しまして殿内に入らずに屋外での実施、参加者のマスクの着用、適正な社会距離の確保、混雑解消のため複数日に振り分けて実施などの感染症対策を講じて実施しますのでご理解ご協力願います。
また、ご参拝の叶わない方、少しでも風邪の症状のある方、健康に不安のある方はご参集をお控え頂き、郵送でお申込み頂きますようお願いいたします。
(大祓の郵送祈禱は送料不要)

斎行日(予約不要・どなたでもご参加いただけます)
六月二十七日(日) 午後三時
六月三十日(水) 午後六時
七月 四日(日) 午後四時

玉串料 三〇〇〇円(一世帯)
授与品 茅の輪
御神菓(美保岐金平糖)

※疫病除けの茅の輪は六月上旬から九月末頃まで設置予定。分散参拝も可。
※緊急事態宣言の延長など社会的な事情に鑑み、急な変更もございますので予めご承知おき下さい。公式サイト・占いメールでも随時詳細を告示します。

夏越の大祓とは

大祓神事の歴史は古く、大祓詞(中臣祓)は平安時代の「延喜式」(九一七年)に記載され、古代豪族の中臣氏が司る宮中行事でもありました。

人が生きる上で知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを取り除き、疫病や災厄を避け心身を清らかにすることを祈念した神事です。とりわけ生と死が身近であった中世においては重要な意味合いをもっていたと考えられます。

わけても、江戸時代以降はこの六月の梅雨の時期に合わせて疫病・災厄除けを祈願した茅の輪くぐりの神事が広く江戸の庶民に広まったとされ、日本中で行われる伝統行事となりました。
当分祠でも毎年欠かさず斎行する恒例行事であり、大きな茅の輪を手作りて製作しております。特に本年はいち早くの疫病封じ・感染収束並びに健全な社会生活の快復をご祈念申し上げ、期間を延長してお飾り致します。

茅の輪守

社頭頒布(二〇〇〇円)



『茅の輪くぐりの作法』

「みな月の夏越の祓えする人はちとせの命のぶといふなり」

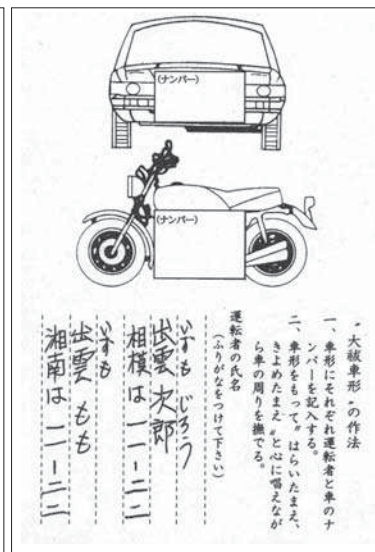
この和歌の起源を遡ると、寛弘三年(一〇〇六年)頃編纂の『拾遺和歌集』に「題しらず」・「よみ人知らず」として記されており、当時より高い注目があったことが読み取れます。

茅の輪をくぐる時は、古式豊かな抑揚で大祓の和歌を唱えながら三周まわることが作法とされます。茅の輪くぐりの神事を終え、例年は殿内で大祓式を執り行いますが、本年は境内(屋外)にて十分に広がり大祓詞を神職が唱和します。

ご参列の皆様におかれましては飛沫感染防止の為、マスク着用と心の中で一緒に唱えて頂きますようご案内致します。過密にならないように六月三十日前後に複数日に分けて大祓の神事に取り組みます。
当日参加の方は受付での混雑防止の為、お早めにお越し下さい。



大祓車形記入例



大祓人形記入例

人形・車形の使い方

古くより祓や祓をする際に、人間の身代わりとして人形を用いてきました。

当分祠では夏冬の大祓の際に、人形(ひとがた)・車形(くるまがた)を用い、それらを形代(かたしろ)にして自らの罪穢れをうつしお祓いします。

人形の紙に生年月日・氏名を記入し、息を三回吹きかけ、頭から全身気になる場所を撫でこすり、悪い気を取りうつししてお祓いします。

車形に生年月日・氏名・ナンバーを記入し同様に自家用車、バイク・自転車などの四方を撫でこすりて罪穢れをお祓いし、当分祠にお納め下さい。

大祓の神事の際、身代わりとしお祓いし、後ほど忌火でお焚き上げします。

なんで茅の輪をかざる?

その答えは神話『備後国風土記』(和銅六年(七二三年)奈良時代初期に編纂)に伝えられている。鎌倉時代中期、ト部兼方によって記された『新日本紀』に、「備後国風土記逸文」として「蘇民将来」の逸話が伝存している。諸説あるが一般に次のように伝えられている。

武塔(むたふ)の神が、旅をしている途中、蘇民将来、巨旦将来という兄弟に宿を求めたところ、弟の巨旦将来(こたんしょう)は裕福であったにも関わらず宿泊を拒んだのに対し、兄の蘇民将来(そみんしょう)は貧しいながらも喜んで厚く饗しました。その数年後、再び蘇民将来のもとを訪ねた武塔の神は「私の名は素戔鳴神(すさのおのかみ)である。もし悪い病気が流行ることがあった時には、茅で輪を作り腰につければ病気に罹らない」と教えられました。そして疫病が流行したときに巨旦将来の家族は病に倒れましたが、蘇民将来は茅の輪で助かったというのです。

この言い伝えから「蘇民将来」と書いた紙を門に貼るという信仰が生まれ、茅の輪も当初は伝説のとおり小さなものを腰に付けるというものでしたが、江戸時代初期になり、大きな茅の輪を潜って罪や災い、病を取り除くという神事になったと言われている。

神話を読み解く

様々な地域で昔話として伝えられたこの神話を読み解くことで当時の人々の切迫した祈りや死生観がわかります。諸説解釈がありますが、神様に茅の輪をもらって助かったという部分は共通しますが、最も古いとされる備後国風土記の伝承では、茅の輪を渡された夜、疫病から助かったのは蘇民将来の娘だけであり、巨旦も蘇民将来も、この物語に関わる全ての村人が悉く病でこの世を去ってしまいました。結びに神様より、「後世茅の輪を着けて蘇民将来の子孫と名乗れば疫病の難から免れるだろう」と諭される結末ですが、あまりにあっけない結末に得体的に感じない後味の悪さを感じます。当時の人々にとって一度疫病が発生してしまえば集落全体が一夜で死に絶えることもあったことが分かります。ワクチンのない時代の疫病に対する先人の恐れや無念さが祈りとなって神話に伝えられているのです。同時に人の助け合いの大切さも伝えるものです。神道の信仰の根源とは人間の力を超えた事象や自然のはたらきに対し、恐れや畏敬の念をもって崇め称えたものと考えられます。物語の中ですら神様の力に頼っても簡単に疫病から免れられないことから当時の人の疫病に対する恐怖と、疫病除けの祈りが切々とみとれます。